

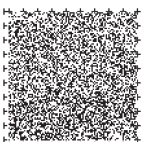
はじめに

都はこれまで、誰もが暮らしやすく、訪れやすい社会を実現するため、ユニバーサルデザイン（※①）の理念に基づく福祉のまちづくりに取り組んできており、高齢化の進展や障害者差別解消法の施行、さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）開催を機に、こうした取組をより一層加速させることが期待されています。

東京を訪れる人を含めて、誰もが円滑に移動し、一人でも同行者と一緒でも同じように食事や買い物などが楽しめるまちづくりを進めるためには、施設等のハード整備とともに、誰もが必要な情報を容易に入手できたり、適切な時期にコミュニケーションを図れるようにすることや、真に必要としている人が利用できるよう施設・設備の適正利用を進めることなど、ソフト面の取組も必要です。

このハンドブックは、障害の社会モデル（※②）の考え方に基づいた「心のバリアフリー」について、分かりやすい具体的な事例を交えながら紹介し、都民の皆様の理解促進につながるようまとめました。

東京2020大会開催時には、世界中から様々な人々が東京を訪れます。多様性が尊重された「ダイバーシティ」（※③）を目指して、「心のバリアフリー」に対する理解が広がり、多くの人の実践につながることを願っています。



目次

1	「心のバリアフリー」とは	
	(1) 心のバリアについて	4
	(2) 社会や環境にあるバリア	9
2	「心のバリアフリー」の実践に向けて	
	(1) 都民の「心のバリアフリー」に関する認識	10
	(2) 「心のバリアフリー」の実践のための3つのステップ…	13
3	まちのバリアを考える	
	(1) バリアはどこにあるでしょうか	16
	(2) 場面ごとの配慮のポイント	20
4	「心のバリアフリー」の理解に向けた取組	28
	用語解説	30

